

グラビア	地域を支える人 高橋利英さん・島根県飯南町	1
発掘!地域の希望のタネ	大分県玖珠町 〈旧豊後森機関庫〉	5
給食のじかん	〈チキンチキンごぼう〉 山口県山口市	山根直子 6
書評	田中淳夫 著 『絶望の林業』	菅原敏夫 8
焦点	IR (統合型リゾート) の問題とは何か	柴田武男 10

特集 森林を再び「宝の山」にするために

日本の森林の現状と課題	藤掛一郎	16
森林経営管理法と自治体—悪法をいかに善用するのか	泉 英二	24
森林環境譲与税を有効に活用するために—高知県大豊町	平石 稔	33
森林と福祉の連携による「生きがい就労創生事業」—被災者の心と暮らしの復興をめざして—岩手県釜石市	菊池 亮	43
森林認証制度の展開と位置づけ—FSC®森林認証制度について	前澤英士	49
「木育」が拓く森とのつきあい方—東京おもちゃ美術館が全国で進めるウッドスタート事業	馬場 清	55

座談会	『月刊自治研』を読む〈第四季〉 『月刊自治研』と九〇年代	有留和雄 + 島田恵司 + 辻山幸宣 + 篠田 徹	61
各県自治研活動レポート	地域や市民、働く仲間と連携した 越前市の自治研活動—福井県本部	間所祐丞	70
	『月刊自治研』2019年総索引		72
	自治研センターの機関誌案内		79
	次号予告・編集部から		80



『絶望の林業』
新泉社 二二〇〇円+税

田中淳夫 著

森林ジャーナリスト

著者は自らを「森林ジャーナリスト」と称する。森林は、生物、土壌、水、気象、社会に関わって文化、経済、政治の総合的舞台だ。

戦後植林された人工林は五〇年以上を経て大きく育った。国産材の伐採量も増えている。何よりも木材自給率が急上昇。間伐材の利用、バイオマス発電、木材輸出の急増。「日本の山は宝の山になった」と、本号の特集を見透かされているよう



な文章も登場する。

しかしそれらはすべて錯誤。

山主の森林への投資はリターンを生まざ、慢性的な赤字。補助金で息をついているが、赤字幅は拡大、産業としては成り立っていない。価格の低迷を量で補うために木材生産量は増えるが、販路や用途が拡大していないので、木材は余り、価格下落の悪循環。価格下落で輸出が増える。質ではなく、価格を理由とする輸出拡大は産業の劣化をもたらす。

価格の低迷

国産材は安いのだ。林業では暮らせないくらい安い。しかし消費は拡大していない。木造の家は少なくなっている。そもそも空き家が問題になっているほど住宅需要も低迷している。バイオマス発電はどうか。発電所建設は目白押し。しかし木質の燃料は九五%が輸入なのだ。しかし、間伐などが十分行われていないので出る端材は限られている。本当は家の柱

になるような用材も燃やされている。産業のプライドも失われている。

林政の悲惨

林業政策はもつとひどい。森林・林業白書は統計で嘘を付き、林政担当者は山を知らない。「クリーンウッド法」という合法木材利用推進のための法律が典型的なザル法で、オリンピック新国立競技場建設でも違法伐採木材が使われたのではないかという批判がある。

著者が「絶望」するのも無理がない。

かすかな希望を見出すために、著者は、かつての吉野(奈良県)、林業を紐解き、スイスの森を見、篤林家と対話する。北海道中川町、宮崎県諸塚村。結論は控えめだ。画一的な手法を希望と掲げた途端陳腐化する。林業も森林と同じに多様性に満ちていなければ成功しない。木種も経営も多角的であることを求められる。シンプルだけど深い結論。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員